

藤原宮第29次発掘調査現地説明会資料

1980年7月19日

奈良国立文化財研究所 飛鳥藤原宮跡発掘調査部

1. 調査の経過

奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部は、一昨年、藤原宮東面大垣地域において宮東面大垣と内濠・外濠の調査を行い（第24次調査）、昨年はそれに北接する地域において東面北門の位置・規模と三条大路計画線等を確認した（第27次調査）。本年は、さらに宮東限地域の諸施設を広範囲に検出するため、第24次調査地に南接する場所において、4月2日より調査を開始した。調査面積は約3000㎡である。

2. 検出遺構

調査によって検出した遺構は、宮東面大垣、内濠、外濠、掘立柱建物3、掘立柱塀5、溝4、土壌1等がある。宮東面大垣（SA175）は、14間分を検出した。前2回の調査結果と同じく柱間は約2.66m（9尺）で、東側に柱を抜取っている。内濠（SD2300）は、大垣の西方12mにあり、幅約2.5m、深さ約0.7m、外濠（SD170）は、大垣の東方約20mにあり、幅約5.5m、深さ約1.2mである。SD2295は大垣と外濠のほぼ中間に位置する溝で、宮の四周をめぐると思われる。外濠の東約3mにあるSA01は、掘立柱南北塀かと考えており、柱間1.75mとすると7間の塀となる。その西には5間の掘立柱南北塀SA02があり、柱間2.1m等間で、北から2・3番目の掘形には柱根が存していた。掘立柱東西棟建物SB03はSA02より新しく、梁行2間、柱間3.3m等間、桁行は2間以上、柱間2.4mである。その北方にある掘立柱建物SB04A・Bは、掘形の重複状況から、最初2間×2間の規模であったものを、後に梁行2間、桁行3間の東西棟に建替えたと思われる。新旧両建物とも礎板を使用しており、梁行柱間2.1m等間、桁行柱間1.9m等間である。外濠西岸には掘立柱塀SA05がある。柱間は2.1m等間で3間分を検出した。調査区南端の大垣東方には、掘立柱東西棟建物SB07がある。梁行・桁行とも2間とみられ、柱間はそれぞれ1.6m、3mである。大垣の西約5mのところには掘立柱南北塀SA08がある。6間分を確認した。南端と、北から3番目の掘形に柱根が残っていたが、柱間は不揃いである。調査区西南端には5間の掘立柱東

西塀がある。これも柱間寸法は不揃いである。

以上の建物・塀のうち、SB04A・B、SA05、SB07、SA08は大垣の柱筋と方位がほぼ合うので、藤原宮期のものとみられる。他のSA01、SA02、SB03、SA10は方位が北でやや西に偏しており、これは前2回の調査の所見では藤原宮造営直前の時期の建物にみられる傾向であるので、同様の時期の可能性もある。さらに藤原宮期のものとして、内濠東岸に接する土壌SK09がある。東西3.6m、南北1.1m、深さ0.6mで、瓦・土器・木簡を出土した。その他、古墳時代の溝としてSD06、SD11等があり、いずれも土器を多量に含んでいた。

3. 出土遺物

内濠と外濠から瓦・土器・木簡が出土した。瓦・土器は24・27次調査に比べその量は少なく、特に外濠での瓦の出土量はきわめて少い。これは瓦を大量に用いた東面北門から遠ざかっていることによるのであろう。木簡は現在までのところ、内濠から47点、外濠から1000点を越える数が出土している。年紀のあるものとしては成成年（文武2年）から和銅2年まであり、評制下の荷札も多い。内容的に注目されるものとしては、多治比門・山部門の2門号を記した木簡があり、藤原宮東面宮城門号を推定する上で貴重である。また慶雲3年の「皇太妃宮職」名を記したものは、27次調査でも出土しているが、木簡によってはじめて知られた官司名であり、しかも皇権の中枢に関わりを持つとみられるものである。他に内濠から鳥形、外濠から仏像の墨画、削り掛けが出土しており、調査区中央の土壌状の凹みからは土馬が出土している。

4. まとめ

3個年の調査で、東面北門・大垣地域を南北約124mにわたって発掘したことになり、門・大垣・内濠・外濠の他、宮の東限の様相をかなり明らかにすることができた。すなわち、宮外である外濠東側の場^箇地では建物・塀などが点在するのに対し、

藤原宮宮城門資料

(1) 続日本紀大室二年六月甲子(廿八日)条
震_二海犬養門_一

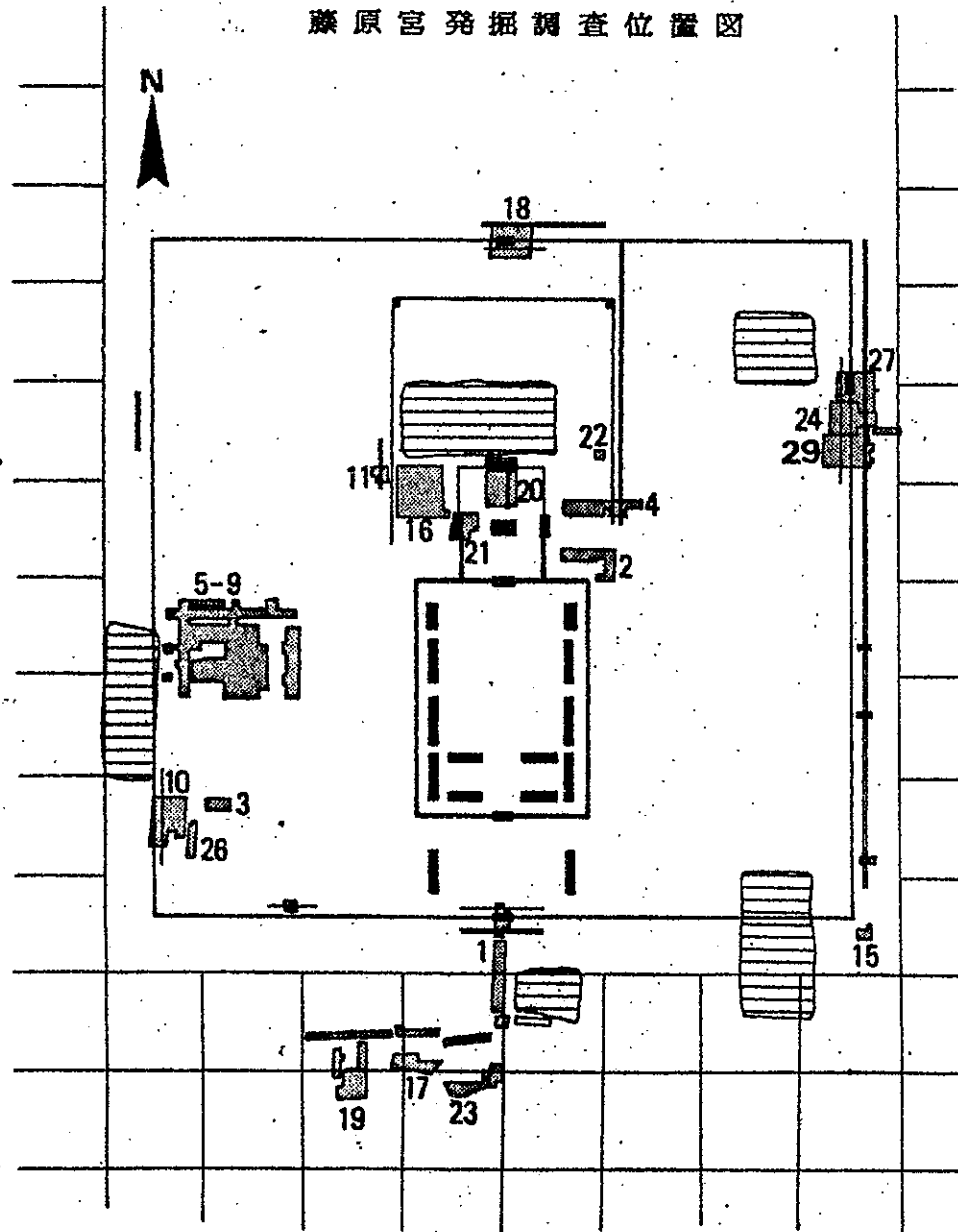
(2) 藤原宮木簡二号
(北面中門地区外濠出土)
□於市_{「活」}遣系九十斤 蝦王 猪使門
□月三日大属従八位上津史岡万呂

(3) 藤原宮第二七次調査出土木簡
(東面北門地区外濠出土)
少子了門衛士□
送建了□

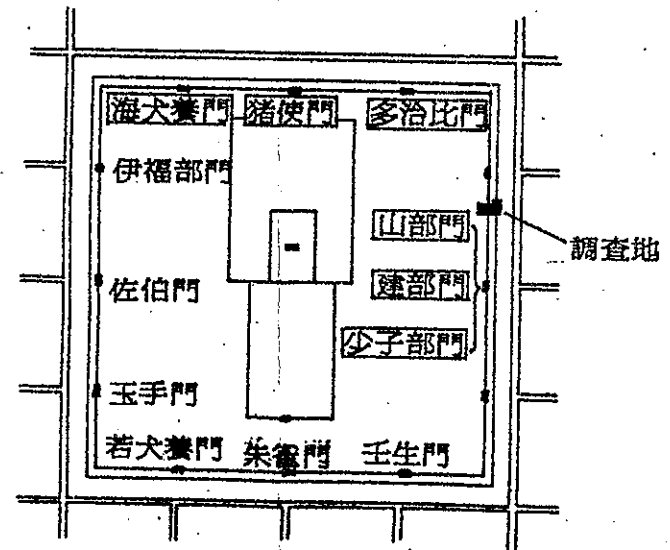
大垣西方の宮内では予想外に建物遺構は少い。27次調査では西端に建物遺構(SB 2575・2576)が検出されたが、今回は大垣より約44m西まで調査したにもかかわらず官衙等の存在を示す遺構は検出できなかった。

今後は過去3年の成果にたつて、宮外堀地部分や宮内の西にむかって、遺構の性格をさらにたしかめる必要がある。

藤原宮発掘調査位置図



数字は調査次数



外濠SD一七〇出土

皇太妃宮職解 御等給布廿端

慶雲參年

6019

(山城國乙訓郡鞠間郡) 弟國評鞠置三

6059

多治比山部門

6081

(山城國宇治郡) 山科里阿那之奈

6033

中務省移

6081

(河内國) 高安評坂本里

6033

栗田申 民部省

6019

(文武三年) 戊戌年三野國厚見評

6031

檢校定 十月

里秦人五斗

科野國伊奈評

6039

天膳職解

6081

園池司

6081

(文武三年) 己亥年十二月二方評波多里 大豆五斗中

6011

典膳椽椅了首入鹿

6081

(出雲國) 楠縫評才呂志里物了知

6039

寮二處衛士

6081

紀伊國海了郡里 木本村海了字手調

6039

隱伎廿兩 志麻十二兩 三文

6031

上鳥羽鷹二枚

6033

若狹十五兩二文

伊勢國木二斗七升

6032

親王宮

6081

大贖十五斤和銅二年四月

6081

大御門庭四口

6081

内濠SD二三〇〇出土

真志 意美列十人

6081

皇太妃宮舍人

請葉

右二品

6081

詔大命 伊奈止申

6081

頂請申 便人和

(昭姑：7・15現在)

第27次調査区

SD2525 SAI75

SD2295 SD170

SB2576

SA2563

SD2555

SE2530

SA2524

SF2400

SB2500

SA2520 SA2519

S.166300

S.166300

SB2575

SB2550

SB2540

SE2535

SE2510

第24次調査区

SD2300

SB2505

SB2290

SK2315

SA2299

SD2320

SA2289

20M

SE2310

SD2295

S.166350

S.166350

SD2305

SD2321

SE2280

SD2281

W.16890

1:400

第29次調査区

SK09

SD06

SD170

SB04 A-B

SD2300 SA08 SA175

SA02

SA01

SA10

SB03

S.166400

SD11

SA05 SD2295

W.17000

W.16960

W.16930